

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： NPO法人大月地域資源活用協議会

上位関連計画にみる地域の将来

- 地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにカーボンニュートル達成
- 第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再生エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量/実質GDP）35%減。
- 現在の人口：●人、将来：●人（2030年）、●人（2045年）（日本の地域別将来推計人口（平成30年推計））
- 地域の総合計画に示された将来目標 現状：●●→目標：●●（●年）、現状：●●→目標：●●（●年）
- 地域の環境分野の上位計画の将来目標 現状：●●→目標：●●（●年） 現状：●●→目標：●●（●年）

②具体的な取組

※誰が何をするのか、主なものをお書きください。

- ・黒炭生産：黒炭生産チーム（移住者、地域おこし協力隊含む4名）
- ・薪生産：黒炭生産チーム（移住者、地域おこし協力隊含む4名）
- ・広葉樹すきま事業（お茶生産）：お茶生産チーム

①ありたい未来

大月の山から繋がる地域循環共生圏 複数のぼちぼち※山業で豊かな生活スタイルをつくる

→ 林業・山師・炭焼きだけが仕事じゃなくてOK！自分のライフスタイルに合わせた方法で山の仕事に関わる人を増やそう。もちろんがっつりでも！※山業：山の資源を活用して生業にすること。木を伐採する人だけでなく、木や山地を活用する人も含めた生業

森林率78%、林業に従事している人が少ない・増えない、という課題を抱えている本町。豊かな山林資源を活用し、ぼちぼちの山業で生活を支えるため複数の事業生みだすことを目標としています。複数のぼちぼち山業は掛け持ちの仕事で生計を成り立たせたい移住者のライフスタイルにマッチしています。移住者を巻き込み、雇用を増やすことで新たな移住希望者の選択肢も広がっていきます。

例えば担い手のひとりに、町内で個人的に自伐型林業の研修を受けた方がいます。3年ほど経験し、ちょっとした山の仕事は受けられるようになった、と話していました。「将来は炭焼きながら一緒にビザも焼けないかな」と目標を教えてくださいました。自分のやりたいことと+αの仕事に山の仕事を選んでくれたら山業だけではなく他の産業もにぎやかになっていきそうです。

→ もし、町内で山を守りながら経済性の伴う事業を行うことができれば？今まで他の地域にチップを出していた人たちが町内に出荷してくれるかもしれません。

→ もし、山の役割や理想の山林の状態について山主さんに理解が深まったら？手つかずの山を任せてくれるかもしれません。そしたら次の循環に向けた植林活動が広がるかもしれません。

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (23年度末)	実績値 (23年度末)	単位
環境	放置林（2次林）の採光率	手入れしてできた薪の量	0	生産体制構築		t
	山主さんをつくる山	コンタクト取れた山主さんの数	0	2		人
	循環する森づくり活動	クヌギのどんぐり栽培	0	30		ポット
経済	ぼちぼちでできる複業をつくる	体制が整った事業数	0	3		体
	広葉樹すきま事業の拡大	すきま事業の数（立ち上げ段階も含む）	0	2		体
	お茶の販売と販路	取扱い店舗数	0	2		店
社会	黒炭生産者・希望者を増やす	研修者数	4	4		人
	広葉樹すきま事業の拡大	すきまワーカーの人数	0	2		人
	ぼちぼち山業で生計を立てる人を増やす	関わっている人の人数	0	5		人
	情報発信	PF事業に関するFacebookページ更新	10	12		回
		複業紹介冊子の作成と配布	0	500		冊

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (23年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	放置林（2次林）の採光率	手入れしてできた薪の量	0	生産体制構築	2030年	320	t
	山主さんをつくる山	事業体が預かり、植林を進める山	0	交渉期間	2030年	5	人
	循環する森づくり活動	クヌギのどんぐり栽培	0	30ポット/1年	2030年	240	ポット
経済	新生産	生産数	0	生産体制構築	2030年	120	t
	黒炭生産	生産数	0	生産体制構築	2030年	200	t
	広葉樹すきま事業の拡大	稼働事業数	0	2	2030年	2	体
社会	黒炭生産者・希望者を増やす	人数	4	4	2030年	10	人
	広葉樹すきま事業の拡大	すきまワーカーの人数	0	2	2030年	10	人
	山業従事者（黒炭・薪・すきま事業以外）を増やす	人数	0	0	2030年	5	人

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

●環境

山に入らない人にとっても目標を共有しやすいよう、想像がつきやすい成果指標を設定。

数年後を目標に循環できる山への取り組みを進めていきます。事業が立ち上がった頃、黒炭生産者と植樹ができるよう次年度はポット栽培から開始します。同時に、植樹させてくれる山主さんを募るためこの事業の活動について山主さんの理解を得るための活動を次年度は取り組みます。

●経済

今年度見つけた事業のタネに水やりをする次年度。事業の自立を目指し、担い手研修と事業体制を整えます。

事業によっては小さなトライをたくさん繰り返すことが効果的なものもあります。お試し販売をしながら徐々に販路を広げていきます。

●社会

現在、黒炭生産希望の方の研修後実際に販売し売上が出ていること、長期的には生産者の増加が目標です。

またその原木は町内の放置林から出されることで社会・環境・経済の循環を目指します。

*お茶を媒介に大月町の山業を知ってもらうためにお茶のパッケージに紹介ページのQRコードを印刷したいと考えています。そこへのアクセス件数を認知度向上成果指標としたいのですが、現状それが可能かどうか分かりません。次年度の課題とし、可能であれば今後長期目標の指

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください